



# **SnapMirror**デスティネーション ボリュームからのファイルのリストア ONTAP 9

NetApp  
February 12, 2026

# 目次

SnapMirrorデスティネーション ボリュームからのファイルのリストア.....	1
ONTAP SnapMirrorデスティネーションからファイル、LUN、または NVMe名前空間をリストアする.....	1
ONTAP SnapMirrorデスティネーションからボリュームの内容を復元する .....	3
ONTAPでこの処理を行うその他の方法.....	6

# SnapMirrorデスティネーション ボリュームからのファイルのリストア

## ONTAP SnapMirrorデスティネーションからファイル、LUN、またはNVMe名前スペースをリストアする

単一のファイル、LUN、スナップショットからのファイルまたはLUNのセット、あるいはSnapMirrorデスティネーション ボリュームからのNVMe名前スペースをリストアできます。ONTAP 9.7以降では、SnapMirror同期デスティネーションからのNVMe名前スペースもリストアできます。ファイルは元のソース ボリュームまたは別のボリュームにリストアできます。

開始する前に

SnapMirror同期デスティネーション (ONTAP 9.5以降でサポート) からファイルまたはLUNを復元するには、まず関係を削除して解放する必要があります。

タスク概要

ファイルまたはLUNのリストア先のボリューム (デスティネーション ボリューム) は読み書き可能なボリュームにする必要があります。

- SnapMirrorは、ソース ボリュームとデスティネーション ボリュームに共通のSnapshotがある場合 (元のソース ボリュームにリストアする 경우가一般的)、`_増分リストア_`を実行します。
- それ以外の場合は、SnapMirrorが`_ベースライン リストア_`を実行し、指定されたSnapshotとそれが参照するすべてのデータ ブロックがデスティネーション ボリュームに転送されます。

手順

1. デスティネーション ボリューム内のSnapshotを一覧表示します：

```
volume snapshot show -vserver <SVM> -volume volume
```

``volume snapshot show``の詳細については、[link:https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/volume-snapshot-show.html](https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/volume-snapshot-show.html) ["ONTAPコマンド リファレンス"]を参照してください。

次の例は、``vserverB:secondary1``デスティネーションのSnapshotを示しています：

```
cluster_dst::> volume snapshot show -vserver vserverB -volume secondary1
```

Vserver Used%	Volume	Snapshot	State	Size	Total%
vserverB 0%	secondary1	hourly.2013-01-25_0005	valid	224KB	0%
0%		daily.2013-01-25_0010	valid	92KB	0%
0%		hourly.2013-01-25_0105	valid	228KB	0%
0%		hourly.2013-01-25_0205	valid	236KB	0%
0%		hourly.2013-01-25_0305	valid	244KB	0%
0%		hourly.2013-01-25_0405	valid	244KB	0%
0%		hourly.2013-01-25_0505	valid	244KB	0%

7 entries were displayed.

2. SnapMirrorデスティネーション ボリュームのSnapshotから単一のファイルまたはLUN、あるいはファイルまたはLUNのセットをリストアします：

```
snapmirror restore -source-path <SVM:volume>|<cluster://SVM/volume>, ...
-destination-path <SVM:volume>|<cluster://SVM/volume>, ... -source-snapshot
snapshot -file-list <source_file_path,@destination_file_path>
```



このコマンドはデスティネーションSVMまたはデスティネーション クラスタから実行する必要があります。

次のコマンドは、元のデスティネーション ボリューム `secondary1` のスナップショット `daily.2013-01-25\_0010` から、ファイル `file1` と `file2` を、元のソース ボリューム `primary1` のアクティブ ファイル システム内の同じ場所に復元します：

```
cluster_dst::> snapmirror restore -source-path vserverB:secondary1
-destination-path vserverA:primary1 -source-snapshot daily.2013-01-
25_0010 -file-list /dir1/file1,/dir2/file2
```

```
[Job 3479] Job is queued: snapmirror restore for the relationship with
destination vserverA:primary1
```

次のコマンドは、元のデスティネーション ボリューム `secondary1` のスナップショット `daily.2013-01-

25\_0010`から、ファイル `file1` と `file2` を、元のソース ボリューム `primary1` のアクティブ ファイル システム内の別の場所に復元します。

デスティネーション ファイル パスは@記号で始まり、その後に関元のソース ボリュームのルートからのファイル パスが続きます。この例では、`file1` が `~/dir1/file1.new` に復元され、`file2` が `~/dir2.new/file2` に復元されます ( `primary1` ) :

```
cluster_dst::> snapmirror restore -source-path vserverB:secondary1
-destination-path vserverA:primary1 -source-snapshot daily.2013-01-
25_0010 -file-list
/dir/file1,@/dir1/file1.new,/dir2/file2,@/dir2.new/file2
```

```
[Job 3479] Job is queued: snapmirror restore for the relationship with
destination vserverA:primary1
```

次のコマンドは、元のデスティネーション ボリューム `secondary1` のスナップショット `daily.2013-01-25\_0010` からファイル `file1` と `file3` を元のソース ボリューム `primary1` のアクティブ ファイル システム内の別の場所に復元し、`file2` を `snap1` から `primary1` のアクティブ ファイル システム内の同じ場所に復元します。

この例では、ファイル `file1` は `~/dir1/file1.new` に復元され、`file3` は `~/dir3.new/file3` に復元されます :

```
cluster_dst::> snapmirror restore -source-path vserverB:secondary1
-destination-path vserverA:primary1 -source-snapshot daily.2013-01-
25_0010 -file-list
/dir/file1,@/dir1/file1.new,/dir2/file2,/dir3/file3,@/dir3.new/file3
```

```
[Job 3479] Job is queued: snapmirror restore for the relationship with
destination vserverA:primary1
```

## 関連情報

- ["snapmirror restore"](#)

# ONTAP SnapMirrorデスティネーションからボリュームの内容を復元する

SnapMirrorデスティネーション ボリュームのSnapshotからボリューム全体の内容をリストアできます。ボリュームの内容を元のソース ボリュームまたは別のボリュームにリストアできます。

## タスク概要

この手順は、FAS、AFF、およびASAシステムに適用されます。ASA r2システム (ASAA1K、ASAA90、ASAA70、ASAA50、ASAA30、ASAA20、またはASA C30) をご利用の場合は、["これらの手順"](#)に従ってデータを復元してください。ASA r2システムは、SANのみをご利用のお客様向けに、簡素化されたONTAPエクスペリエンスを提供します。

リストア処理のデスティネーション ボリュームは次のいずれかにする必要があります。

- 読み取り / 書き込みボリュームの場合、SnapMirrorはソース ボリュームとデスティネーション ボリュームに共通のSnapshotがあれば（元のソース ボリュームにリストアする場合が一般的）、`_増分リストア_`を実行します。



共通Snapshotがない場合、コマンドは失敗します。ボリュームの内容を空の読み取り / 書き込みボリュームにリストアすることはできません。

- 空のデータ保護ボリューム。この場合、SnapMirrorは`_ベースライン復元_`を実行し、指定されたスナップショットとそれが参照するすべてのデータ ブロックがソース ボリュームに転送されます。

ボリュームの内容のリストアはシステム停止を伴う処理です。リストア処理を実行しているときに、SnapVaultプライマリ ボリューム上でSMBトラフィックを実行してはなりません。

リストア処理のデスティネーション ボリュームで圧縮が有効になっていて、ソース ボリュームで圧縮が有効になっていない場合は、デスティネーション ボリュームで圧縮を無効にします。リストア処理が完了したら、圧縮を再度有効にする必要があります。

復元を実行する前に、デスティネーション ボリュームに定義されているクォータ ルールはすべて無効になります。`volume quota modify`コマンドを使用して、復元処理の完了後にクォータ ルールを再度有効にすることができます。

ボリューム内のデータが失われたり破損したりした場合は、以前のSnapshotから復元することでデータをロールバックできます。

この手順では、ソースボリューム上の現在のデータを以前のスナップショットバージョンのデータに置き換えます。このタスクはデスティネーション クラスタで実行する必要があります。

#### 手順

ボリュームの内容は、System ManagerまたはONTAP CLIを使用してリストアできます。

## System Manager

1. \*[保護] > [関係]\*をクリックし、ソース ボリュームの名前をクリックします。
2.  をクリックし、\*復元\*を選択します。
3. \*Source\*では、デフォルトでソース ボリュームが選択されています。ソース以外のボリュームを選択する場合は、\*Other Volume\*をクリックしてください。
4. \*Destination\*で、復元するスナップショットを選択します。
5. ソースとデスティネーションのクラスタが異なる場合は、リモート クラスタで\*[保護] > [関係]\*をクリックしてリストアの進捗を監視します。

## CLI

1. デスティネーション ボリューム内のSnapshotを一覧表示します：

```
volume snapshot show -vserver <SVM> -volume <volume>
```

次の例は、`vserverB:secondary1`デスティネーションのSnapshotを示しています：

```
cluster_dst::> volume snapshot show -vserver vserverB -volume
secondary1
```

Vserver	Volume	Snapshot	State	Size	
Total%	Used%				
-----	-----	-----	-----	-----	-----
vserverB	secondary1	hourly.2013-01-25_0005	valid	224KB	0%
0%		daily.2013-01-25_0010	valid	92KB	0%
0%		hourly.2013-01-25_0105	valid	228KB	0%
0%		hourly.2013-01-25_0205	valid	236KB	0%
0%		hourly.2013-01-25_0305	valid	244KB	0%
0%		hourly.2013-01-25_0405	valid	244KB	0%
0%		hourly.2013-01-25_0505	valid	244KB	0%

7 entries were displayed.

2. SnapMirrorデスティネーション ボリュームのSnapshotからボリュームの内容をリストアします：

```
snapmirror restore -source-path <SVM:volume>|<cluster://SVM/volume>
```

```
-destination-path <SVM:volume>|<cluster://SVM/volume> -source-snapshot <snapshot>
```



このコマンドは元のソースSVMまたは元のソース クラスタから実行する必要があります。

次のコマンドは、元のデスティネーション ボリューム `secondary1` のSnapshot `daily.2013-01-25\_0010` から元のソース ボリューム `primary1` の内容を復元します：

```
cluster_src::> snapmirror restore -source-path vserverB:secondary1
-destination-path vserverA:primary1 -source-snapshot daily.2013-01-
25_0010
```

```
Warning: All data newer than snapshot daily.2013-01-25_0010 on
volume vserverA:primary1 will be deleted.
```

```
Do you want to continue? {y|n}: y
```

```
[Job 34] Job is queued: snapmirror restore from source
vserverB:secondary1 for the snapshot daily.2013-01-25_0010.
```

3. リストアしたボリュームを再マウントし、ボリュームを使用するすべてのアプリケーションを再起動します。

## ONTAPでこの処理を行うその他の方法

タスクを実行するツール	参照するコンテンツ
System Manager Classic (ONTAP 9.7以前で使用可能)	<a href="#">"SnapVaultを使用したボリューム復元の概要"</a>

### 関連情報

- ["snapmirror restore"](#)
- ["volume snapshot show"](#)

## 著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

## 商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。